

次世代ネットワークの接続料算定等に関する研究会(第2回) 議事要旨

1. 日 時：平成20年6月23日(月) 16:00~18:00

2. 場 所：総務省 低層棟1階 総務省第1会議室

3. 参加者

(1) 構成員

：東海座長、酒井座長代理、相田構成員、伊藤構成員、佐藤構成員、
関口構成員、手塚構成員

(2) 総務省

：寺崎総合通信基盤局長、武内電気通信事業部長、
古市料金サービス課長、村松料金サービス課企画官、
飯村料金サービス課課長補佐、岡本同課長補佐

(3) オブザーバ

：東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社、KDDI株式会社、
ソフトバンクテレコム株式会社、イー・アクセス株式会社、
社団法人テレコムサービス協会

4. 議題

(1) オブザーバヒアリング

(2) その他

5. 議事要旨

<オブザーバヒアリング>

○ 各事業者より、プレゼン資料を用いて説明。

<質疑応答>

○ 質疑応答における主な発言は以下のとおり。

- ・ 一番コストドライバを見つけにくい要因を大きい順に並べると何があるか？
- ・ (NTT東西) 従来はQoSのひかり電話網とベストエフォートの地域IP網が別網であったが、NGNでは、ベストエフォート通信とQoS通信が統合された1つのネットワーク上を流れるため、コストドライバを考える上でそこが一番難しい。
- ・ コストを離れて市場価格でコストイングを考えた場合、内部相互補助といったような公正競争の観点から課題はないか。
- ・ (NTT東西) コストとプライスの関係では、電話の帯域が100k、映画6Mとするとして帯域比例により1:60でコストを配賦し、それに適正報酬をのせて接続料を作った場合、市場価格との関係をどう考えればいいのかを悩んでいる。

- ・ 接続料を作るときにコストは関係なく作っていいのか。
- ・ (事務局) 現行の電気通信事業法上は、接続料についてはコストに適正利潤を加えた額と規定されているので、コストと無関係に接続料を作ることはできない。
- ・ コストドライバが様子を見ても分らない、というのはどういう意味か。
- ・ (NTT東西) いまは必要最低限の単位で設備を構築している段階であり、十分な実績に基づいてネットワークを設計しているのではないということ。
- ・ 市場価格等のコストドライバを挙げているが、市価基準あるいはその市場価格比でもってコストを配分するというよりは、接続料そのものの設定について市場価格をベースに行うという解釈でよいか。
- ・ (NTT東西) 例えば帯域比例のようなドライバに、市場価値のような率を加味することも検討したいと考えている。
- ・ プライシングのところでは、基本的に市場価格ベースでまず接続料を設定しておいて、その後、コストの問題は第2フェーズで考える、こういう考えで主張されたと解釈してよいか。
- ・ (ソフトバンクテレコム) 接続料をきちんと決めるには時間がかかるので、暫定の決め方として、ユーザ料金ではなくて、キャリアズレートや、他の接続料等を加味してベンチマーク的に決めるという考え方もある。特にパケット網のコストドライバについてはダイナミックに考える必要があるのではないか。
- ・ コストベースで議論するのではなく、市場価格のようなものをベースに考えた方が良いという考えがあるのか。
- ・ コストドライバの検討に当たっては、サービスの市場価値を勘案すべきという意見もあるし、必ずしもコストだけを基準とすべきではないということだろう。可能性としてはベストエフォートの場合は空いていたらコストはタダと考えてもいいわけで、計算の仕方によっていろんな解がある気がする。
- ・ 最終着地点の料金の在り方と、暫定期間における考え方がそれぞれ違うと思っている。最終着地点では多くの人がコストをベースに料金があるべきだと思っている。ただ、どの時期、どういう形で行き着くか多少いろんな迷いもあるし、どういう料金になるか需要が伸びない中でどんな料金になるかも心配されている。だから暫定的な考え方とそれから最終的なゴールの考え方と2つある。
- ・ KDDIの5頁目の①において、将来のNGNの終点をあらかじめ設定すると記述している。これはどういうことか。
- ・ (KDDI) 具体的なアイデアを持ち合わせているわけではない。紹介したスウェーデンについてもかなり大胆な想定を置いて算定しているようだ。例えば、「2012年にはこのような設備が必要で、トラフィックがこれくらい流れるだろうから・・・」といった想定で作っている。NTTも、将来のNGNがどうなっているかについて何も想定していないということはないと思う。
- ・ NTT東の22頁の第3パラグラフ目のところに、「プライシングの一部を構成するコスト

ライバ」という表現があるが、どういう意味か。コスト+適正利潤というものが接続料算定の基本だが、いわゆるコスト以外のプライシングに関する構成要素というのはどんなことを考えているのか。

- ・ (NTT東西) プライシングという意味を幅広い意味で捉えており、コストを基にする方法もあれば、市場環境や、現行提供しているサービス等との関係もある。全く新しいサービスも登場しているが、既存のサービス、マーケットも現存しているので、総合的に考えていく必要があると考えている。
- ・ KDDIの3頁の接続料設定の在り方について、全体でひとつの接続料を設定することが適当とはどういう意味か。
- ・ (KDDI) NGNのある時点の接続料を算定し、それに向けて既存サービスの接続料からどう移行していくかというアプローチ。既存網とNGNをまとめてコスト算定しろ、と言っている訳ではない
- ・ マイグレーションの時期の問題として、ネットワークが並存しながら移っていくと、需要が一つにまとまれば大きい需要であってもそれが分散されて、単価が高くなるといった問題が起こり得る。電柱や管路・とう道といったものも共通している部分であり、新しいネットワークと古いネットワークと分けると課題になるかもしれないと考えるが、NTTはその辺はどのように考えているのか。
- ・ (NTT東西) アクセス区間については、今回のネットワークの部分とは別議論と考えている。
- ・ 既存のネットワークとNGNとの間でまずコスト配賦ができなければ、NGNでのコストの配賦ができない、とKDDIは指摘していると思うが、その部分についてどのように考えているか。
- ・ (NTT東西) 前回の議論で、例えば電話と専用線と地域IP網とNGNをどうやって分けるのかというご質問があったので、24頁を付けたもの。例えば電力設備であれば、現行の仕様電力値比で既存のネットワークとNGNのコストを配賦したいと思っている。また、中継光ファイバについては、例えばNGN伝送路に使うもの、それから電話に使うもの、専用にするもの、地域IP網に使うものの使用ファイバ量比で配賦したいと考えている。
- ・ これまでは接続会計ベースで設備と機能とのマトリックスを考えるという形をとってきたが、それはNTT東の28頁において、左側にサービスを並べているのは、今回のNGNの接続料問題ではこういう思考が必要だということか。
- ・ (NTT東西) 例えば、ひかり電話においてIGSという機能だけを取り出した場合、GWルータを通じてIP・IPでそのまま相手方の網に抜けていく通話や、網内で折り返した通信は単位当たりのコストが違ってしまうことになる。ひかり電話でまとめておいて、そこからIGSだけ取り出すといった視点も必要かと思う。これも課題だと認識している。

<その他>

- 追加質問については事務局まで提出願いたい。回答については第3回に配布予定。

○ 第3回会合は7月下旬開催予定。

(以 上)